



## 「失敗する」と「親になる」

新年あけましておめでとうございます。

旧年中は、たくさんの建設的なご意見のアンケートご協力をありがとうございました。保護者様からのご意見は園にとりましての大切な財産です。前向きに改善に当たりたいと考えております。また、先生方への温かい励ましのお言葉も先生方にとりましての大切な財産です。ある先生は読みながら涙しておりました。本当にありがとうございました。

日ごろから「親心」と言っておりますが、先生方が「親になる」とはどんなことでしょうか？保護者様が「親になる」とはどんなことなのでしょう？

先日、2学期の振り返りを行った際、若い先生のプレゼンが素晴らしく感動しました。その一部をご紹介します。

「まず、どんな行事でも何かしらの問題が起き、そして人間なので感情が有り、それが表に出る事は当たり前の事だと思います。ですが、そのような時にだれが一番冷静に受け止め次の手段を考えていくのかという事を思った時、やはりせめて先生だけは前向きに前向きに考えて、全体のモチベーションを下げないように進めていく必要があることを実感しました。このことは、行事のみならず日々の保育の中でも一緒です。」

なんて前向きな若い力なのでしょう？一瞬にして心を奪われる話し方でもありました。こんな先生に教えていただける子どもたちは、失敗も学びに変換できる瞬間をいくつも経験しているのだろうと感動しました。

「失敗も学びに変換できる。」

人が挑戦するとき、最初から失敗するとわかれば当然挑戦しません。では、なぜ人は挑戦するのでしょうか？それは人にしかできない肯定的錯覚ができるからです。「失敗するはずがない。でも、何か違ったの。では次はこうしよう。」と思えるのは肯定的錯覚という人間にしかできない能力のおかげなのです。

「やり抜いた時の感動を共有する」

何度も挑戦し、失敗し、達成した時のやり抜く力を目の当たりにした時の感動を、こどもたちと共有し、お互いを励まし合い、親と子が切磋琢磨することが、子どものやり抜く強い心を育むと同時に、親としての強い心も一緒に成長しているように感じるがあります。

「ゆるす」

子や、自分自身が失敗したことをゆるす。もう一度挑戦することをゆるす。失敗した人をゆるす。次の挑戦をゆるす。これがあるから下がっても、また上がっていかうと思えるのです。これも人間にしかできない大切な能力です。

お子様の失敗、親（先生や保護者様）としての失敗も、そして園への建設的なご意見も全て学びへと変換し、前向き、ポジティブな、時には都突猛進の「猪」にも学び、皆様方にとりまして、良い一年となりますよう願っております。

